

## 2019年度 北海道倶楽部対抗競技参加選手の皆様へのお願い

総合競技委員長 星野 敏彦

全道倶楽部対抗競技は伝統あるアマチュアゴルフ競技の中心として北海道ゴルフ界の発展の一端を担っております。全道の倶楽部を代表する選手が一堂に会し、他倶楽部選手と技を競うほか、ゴルフの基本となる他のプレーヤーに対する心配りやエチケット、マナーについてさらに磨きをかけ、正しい規則に基づいた連盟主催競技を経験していただくことが、各倶楽部の健全な発展にも寄与できるものと確信しております。

近年ゴルフが幅広い人々の生涯スポーツとして普遍化しておりますが、その中心はやはり倶楽部メンバーであり、そのメンバーを代表する選手が800人近くも統一競技を行うことは全国にも例がなく、その影響は計り知れないものと思われま

す。当競技委員会では、競技が規則通り整然と行われることを願っております。委員会の責任とは①規則に基づいてプレーするプレーヤーの権利を保護すること、②すべての参加者（参加チーム）の視点で公正を図ること、の2点に集約されます。フレンドリーだからと言ってエチケット違反や規則違反の当事者に「甘く」とは全く考えておりません。当事者以外の正当なプレーヤー（チーム）の立場で公正な裁定を行うのが真のフレンドリーと考えております。また今年度よりゴルフ規則の改訂が行われ、規則1.2にはプレーヤーの行動規範が明記されております。（すべてのプレーヤーに期待される行動）

このような趣旨をご理解の上、各倶楽部選手を統率するチームキャプテンの皆様には下記の要点を各選手に充分徹底して頂くようお願い申し上げます。なお、疑問がございましたら、前日のキャプテン会議の席上、担当競技委員長が補足説明致します。

### 1. 各選手が倶楽部代表としての自覚を持って下さい。

本競技への参加は所属倶楽部の深いご理解によるもので、練習から全行程終了までの諸経費も実費の範囲内で各倶楽部にご負担頂けることがアマチュア資格規定で認められている唯一の団体競技です。従って華美に流れることを厳しく戒め、過度の出費負担をかけることはゴルフ規則からも認められていないことを認識していただくよう競技委員会として重ねてご注意申し上げます。さらに各倶楽部がなりふり構わず勝つことを求めているか、名誉あるプレーを求めているかゴルフの原点に戻って選手の皆様とも話し合うべきかと思

います。携帯電話によるトラブルも生じております。ゴルフ場内では電源を切って他のプレーヤーに迷惑を掛けないようにお願い致します。

### 2. 競技の条件で「プレーのペース」としてタイムパーの設定。

競技の条件で「プレーのペース」としてタイムパーを設定しています。

この競技では、3人組8分・9分間隔、4時間10分程度で余裕を持ったタイムパーを競技の条件で設定しております。タイムパーとは、その組がそのホールに費やすことのできる最大限の許容時間です。

プレーヤーが、いつも待つことなく公平に自分のリズムでプレーできるように配慮したものです。

私ども競技委員は、その組が前の組と1ホール空いていたり、後続組がプレー出来ずに迷惑を受けている状況だけは避けたいと思います。

そのような状況にあるときは、時間内であっても他のプレーヤーに迷惑を掛けているわけですから、進行について競技委員が急ぐように注意を促すこととなりますので、ご理解の上よろしくご協力下さい。

※札幌南GCのカートの乗用は認めますが、プレーのペースを順守できるよう選手の皆様のご協力をお願いいたします。

本年度より連盟主催競技において、距離計測器の使用を認めておりますがプレーヤーが打てる状態から（50秒、40秒）のルールがありますので充分理解していただきますようお願いいたします。

### 3. 競技失格者を出さないための対策

毎年ご注意くださいありますが、失格者が出ております。エリア方式を取り入れておりますのでスコア誤記等のないよう念を入れてご指導願います。またプレーに疑義が生じた場合はスコアカード提出前に競技委員に問い合わせるよう指導して下さい。ゴルフ競技では、勘違いや不注意などによる失格を完全に防止する対策はありません。団体競技ではそれに備えて必ず1名の余裕をみておりますが、同一チームで2名の失格者が出た場合はチームが失格という甚だ後味の悪いことになってしまいます。不幸にして第一日目や早いスタートの競技者が失格した場合、他の選手は万全の策を講じて下さい。

従来違反事例は次のようなものです。

イ) 遅刻により、規則 5-3a、違反の罰：失格（ただし5分未満の遅れでスタートできる場合2罰打）

- ・うっかりスタート時刻を勘違いする
- ・交通事情による遅刻

その他常識では考えられない遅刻ミスが起きることがあります。キャプテンは各選手への事前連絡、携帯電話の活用などで二重、三重の防止策を講じてください。

ロ) スコアカードの署名ミス、マーカー署名ミスなど規則 3.3bの失格防止対策

エリア方式を採用しておりますので、スコア確認を終えるまでエリアからでないように注意してください。

競技者自身が入念に再チェックする事が第一ですが、競技者がカードを提出する時にキャプテンや既にプレーを終了したチームメイトや友人などが居合わせた場合は、カード提出が遅れない範囲で署名確認や、マイスコアとの照合に協力し、失格を未然に防止するのも一方策でしょう。

ハ) プレー中にルール上の処置に疑問が生じたり、マーカーや同伴競技者と見解が違うような時は、規則 20.1C(3)を適用し第2の球をプレーすることができます。第2の球をプレーする場合は、どちらを採用したいかを必ずプレーする前に告げて下さい。また誤所や間違えたドロップやプレースしてもまだプレーしていなければ、罰なしに拾い上げ訂正することができます。（規則 14.5）

このようなルールそのものが、ルールを知らなかったり、勘違いからプレーヤーを救済しています。キャプテンはこれらの処置や手順を正しく指導して下さい。

**第2の球をプレーした場合は、スコアカードを提出する前に競技者はその状況の事実を委員会に報告しなければならない。報告しなかった場合、その競技者は競技失格となる。(R20.1c(3))**

**※オリジナルボールをプレーした後に、第2の球と宣言しても、第2の球とはなりませんのでご注意ください。**

ニ) 暫定球のプレーについて

「暫定球」とは球がウォーターハザードの外で紛失したかも知れない場合や、アウトオブバウンズであるかも知れない場合に、規則 18.3 に基づいてプレーされる球をいいます。紛失の恐れがあった場合は、探しに出かける前に必ず暫定球をプレーしてください。探した後に元の位置に戻ってドロップまたはプレーした場合には、初めの球は紛失したものとみなされます。ドロップまたはプレーした球が正球となります。**球探し3分以上となると紛失球となります。**

ホ) 使用する用具についての注意

使用クラブ（規則 4.1）や、人工の機器・異常な用具（規則 4.3）についてはルールは厳しく規制し、この違反はほとんど競技失格ですから、この機会に再チェックして下さい。グリーン上では使用クラブの制限はありません。ゼネラル・ルール通りプレーして下さい。結構です。

- ・クラブ・・・市販されているクラブがすべて適合しているとは限りません。疑問があれば事前に確認して下さい（規則 4.1）。

- ・人工の機器・異常な用具（規則 4.3）

この項に該当する違反のケースは次のようなものです。

- ストロークを行うときやプレーする上でプレーヤーの援助となる可能性のあるもの
- クラブを握る上でプレーヤーの援助となる可能性のあるもの
- グリーンリーディング資料は冊子の大きさが 17.8cm×10.8cm 以下で、冊子上の5ヤードの幅が 9.525mm 以下の縮尺のものを使用すること

#### 4. 使用球限定（同一銘柄・同一タイプの球）

この条件は本競技では採用しておりません。

#### 5. アドバイスについて

団体競技におけるアドバイス違反の事例は、応援のチームメイトやキャプテンが、競技者が求めようとしないのにアドバイスすることに同伴競技者からクレームがつくことがあります。この場合競技者は求めていないので、規則 10.2a では即違反とはなりません、競技者がチームメイトやキャプテンのそのような行為を制止しなければ規則 10.2 の違反により 2 罰打付加となります。キャプテンは本項について選手ばかりでなく応援する方にも注意すべきものと思います。この競技では規則 24.4a 『ティームアドバイスを与えることが認められる人（アドバイス・ギバー）』は競技の条件の中に採用しておりませんのでご注意ください。

#### 6. 規則についての指導

本競技では、(公財)日本ゴルフ協会規則、ローカルルール、競技の条件の 3 部の規則と、注意事項で成り立っております。それぞれの違いについて認識して下さい。競技ではそれぞれのコースの特質からローカルルールも異なっております。アウトオブバウンズ、修理地、障害物、イエローペナルティエリア、レッドペナルティエリア、指定ドロップ区域、コースと不可分の部分、目的外グリーン、後方線上の救済を受けて救済エリア外からプレーした球、など注意深く読んで下さい。

また、規則 3.3b(3) (スコア誤記) についてもご確認ください。

#### 7. 開催倶楽部への配慮

競技開催コースでは、全道から倶楽部を代表する選手や倶楽部関係者が来場されますので、事前からキメ細かい整備を致しております。競技中の 2 日間は倶楽部メンバーのご理解を得て解放されてはおりますが、練習ラウンド当日ではまだ競技者の満足する整備がされていない場合もあります。開催コースの事情を配慮してある程度は我慢して頂かねばなりません。しかし残念ながら例年練習ラウンドの際の倶楽部対抗選手のマナーの欠如が話題となり、その事例は次のようなものです。思い当たることはありませんでしょうか？

※〇〇倶楽部の選手は練習ラウンドで、当日のティを想定して別な所からティショットを練習する。

※〇〇倶楽部の選手は練習ラウンド中、バンカー内から数個の球をプレーする。

※〇〇倶楽部の選手は 3 組でスタートしホールが空いているにも拘わらず第 1・2 組は、終了したグリーンで練習する。このような点に注意して下さい。

#### 8. キャディーに関する事項

本競技の開催コースでは、キャディーに対して本競技の特性や、ルールについて一通りは教育しておりますが充分とは参りません。かつ 3 バック共用キャディー、キャディー立ち乗りのカート使用となっております。キャディーの行為については、プレーヤーの責任であることは誰でもが知っておりますが、次のようなキャディーのうっかりしたミスを未然に防止するために選手に徹底して頂きたいものです。

イ) 自分のクラブや球についてキャディーも間違わないような明確なマークを付して誤球のプレー防止及び他人のクラブ使用による規則 4-1b の違反を防止して下さい。

プレーヤーはキャディーを良き協力者として思いやりをもって接し、言動に注意し、独占することなくプレーするようお願い致します。

#### 9. すべての疑問はスコアカード提出前に解決するよう指導して下さい。

競技者自身のプレーに関するばかりでなく、マーカーの立場、あるいは同伴競技者としてプレー上やルール上の問題があった場合は、必ずスコアカード提出前に競技委員に報告し提出して下さい。この条項の違反の罰は競技失格となります。

以上